

文芸

投稿は投稿者の住所、電話番号を記入し、役場広報係まで。締切は毎月15日(必着)です。漢字にはふりがなを記入し、数種類に投稿する場合は別にしてください。広報投稿作品の、他への重複投稿はご遠慮ください。

短歌

末武 有二選

黄色の帯引き締めた少年は笑顔でタッチ心浮き立つ
安永 川野 光子
時雨降りすくすく育つ大根は白き首ねを競り上げて
安永 福田 圭子
雪掻きの季節が来たと写真来る 要慎しろと友への返事
馬水 西田 正己
庭師きて枝切り払い筒抜けに 朝な夕なの光も届く
安永 山下たか子
久しぶりメール届いた我が子から そろそろ頼む断捨離やって
広崎 瀬戸サイ子
一年は駆け足で過ぎはや師走 災害受けし老いの吾にも
宮園 島 みつき
幻ときえてしまった家後に紡ぎはじめる再びの夢
宮園 金子フム子
師走風復興願えど時すぎた良き年として耐えて年越す
小谷 今村 文子
枯れ草の伸びし更地にポツポツと新築平屋の仕上がりてゆく
広崎 松原まゆみ
地震禍に宮の鳥居は崩れ落ち復旧ねがふ新玉の春
安永 守住 孝子
御社の再建なりて新年を祝う人らの参拝多し
惣領 島田 廣子
新年の時を過ぎしに皆揃い お節を囲みあふる笑顔
辻の城 岸良真由美

投稿は、一人一首でお願いします。

俳句

河野 全平 選

解体の庭にひともと寒椿
小春日や阿蘇の噴煙背のびする
しぐるるや花傘続く通学路
一群の寒水仙の匂ふかな
仏前のおせちに添える梅一輪
強箱や傘さしかけるプラランター
仮設村軒にまっかな唐辛子
ほの白く沈みゆく月霜の朝
冬満月忘れたきことまた想ふ
一句鑑賞
拝殿の闇おごそかや初詣
馬水 土井 樹雄
小池 本田のり子
馬水 西田 正己
木山 今吉美英江
赤井 西山恵美子
小谷 今村 文子
小谷 今吉マキ子
木山 山口サツキ
田原 辻ヶ峰子
田上 富岳 選
上野 青逸

狂句

田上 富岳 選

こつこつ メタボ体型減らしよる
こつこつ 音のする方行つてみゆ
こつこつ 編み物つづけプロとなり
こつこつ 年金額から孫貯金
こつこつ 修復多難武者返し
引き受けた 忘れちゃおらん恩返し
引き受けた カーナビさんが連れて行く
引き受けた 小銭でよかなら言いなっせ
引き受けた 婆の守りより孫の守り
引き受けた 家宝とやらのぬか味噌を
こつこつ 修復多難武者返し
赤井 増岡 醉粹
馬水 西田 正己
木山 今吉美英江
宮園 井藤 吉郎
惣領 小森英美子
広崎 瀬戸サイ子
赤井 増岡 醉粹
馬水 西田 正己
木山 今吉美英江
宮園 井藤 吉郎
惣領 小森英美子
広崎 瀬戸サイ子

訂正 先月号の記載に誤りがありました。お詫びして訂正致します。

冷やかして 初心な二人のあかい顔 赤井 増岡 醉粹

狂句次号の課題「昭和の男」「まだ子供だろ」

益城の文化財 町文化財保護委員会



内 寺 / 木 山

永仁5年五輪塔

益城町重要文化財である「永仁5年五輪塔」は、かつて朝来山の福田寺に奉納されていたもので、現在は交流情報センターミナテラスの中庭に移築されています。

その地輪(一番下の石)と水輪(下から二番目の石)には文字と梵字(サンスクリット文字)が彫ってあります。

地輪には、「當國六ヶ庄上安永地頭沙彌是圓之 存主之時奉造立五輪也毎日所作奉 摺写弥陀薬師観音 合一万二千九百九十五鉢 永仁五年 丁酉 三月彼岸」

これを現代文にすると、「私(沙彌是圓)が上安永地頭(役人)の時です。毎日阿弥陀如来・薬師如来・観音菩薩の像を摺り写して、12,995部できたので、祈願のために五輪塔を造って、福田寺に奉納しました。永仁5(1297)年3月彼岸のこびです。」となります。

これは是圓が熊野修験道の信者